



星のように輝き

シリーズ・「パウロ」

第1回



フィリピ[°]2章14～16節

何事も、不平や理屈を言わずに行いなさい。そうすれば、とがめられるところのない清い者となり、よこしまな曲がった時代の中で、非のうちどころのない神の子として、**世にあって星のように輝き、**命の言葉をしっかり保つでしよう。



「思う」から「行う」へ

- 輝くためには「行う」ことである
 - 分かっている, 考えている, 思っている, 悩んでいる, では何にもならない
- 心と体の間の距離
 - なぜ「分かっちゃいるけどやめられない」のか
- 救いは行いにはよらないが...
 - 「あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。」＜エフェソ2:8＞



不平や理屈を言わず

- なぜ不平や理屈を言いたくなるのか
 - やりたくないから
 - やらされているから
- やりたいことを行うことは簡単だが、やりたくないことを行うことは難しい
 - **考えと行動**を結んでいるのは**感情**である
- 主体的・積極的にやってみよう！



行う者は清い

- 「清さ」とは心の様子のことではない
 - 罪はイエス・キリストの十字架の贖いによって清算されている
- 「清さ」とは何かがないことではない
 - 何もしないことが清いのではなく、何かをすることが清いのである
- 神は何もしないことをとがめられる
 - 「裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた」＜マタイ25:36＞



よこしまな曲がった時代

- 今の時代は「ねじ曲がって」「悪意に満ち」
ている
 - － 人を混乱させ、不幸にする
- 時代の流れに押し流されない
 - － 特にマスコミに注意しよう！ マスコミはお金に
支配されている
- 聖書の教えは時代に逆らう！



星のように輝き

- 「命の言葉をしっかり保つ」
 - 聖書の言葉は私たちが永遠に生かす
- 星の輝きは燃えている証である
 - 積極的に行う人は燃えている人
- 「不平や理屈」をゼロに
 - 不平を感謝に、理屈を祈りに
- 思う前に行う年に！
 - 「無言実行」